

平之荘神社の夏祭り（ゆたて祭り）に参加しました



7月16日（日）に、平之荘神社で、夏祭り（ゆたて祭り）が開催されました。本校からは、和太鼓クラブがお祭りに参加しました。

今年度のクラブ活動は5月19日（金）に1回目の活動があり、7月14日（金）は3回目の活動です。そこで、クラブ活動の時間だけでは十分な練習ができないため、毎日の昼休みを使って練習に励みました。

和太鼓の経験者が、今年度初めて和太鼓を体験する人にアドバイスをしながら、自分たちで主体的に練習を進めていきました。

7月になると、練習を鑑賞する児童（体育座りをして鑑賞する児童）も出てきました。

和太鼓クラブの人たちは、学校の代表として、堂々と表現することができました。頑張りました。



目線も意識しながら、体全体で演奏をしました。

4年生の音楽より

4年生の音楽では、2つの音型を合体させて、様子や気持ちが伝わる旋律作りに挑戦しました。子どもたちは、今までの音楽の学習を生かしながら、自分のイメージする旋律を熱心に考えていました。



ペア活動も取り入れながら、自分の意見と相手の子の意見を上手く調整しながら、旋律作りに取り組みました。

真剣に学ぶ雰囲気、とても心地よかったです。

いろいろなパターン of 音型の組み合わせができていました。

旋律のイメージ（様子や気持ち）を表すための自分たちなりの理由が述べられているところが素晴らしかったです。



「飛んでいる感じ、気持ちが高まる感じを旋律にしました。工夫は、音一つとばして、ウキウキした感じを出しました。」

6年生：狂言学習始まる！

7月14日（金）に、6年生は、初めて狂言の演目『附子』の読み合わせを行いました。社会科では、室町時代の文化の『能』を学習しているところです。



今日から、狂言の学習を始めます。狂言でどんなことをやるのかを体験しながら楽しんでください。

R4年度の6年生は、**狂言で、自分らしさを表現しました。自分の思っていることを素直に言えること、素直に聞いてもらえることが大切だ**と学んでいました。

今から『附子』の読み合わせをします。**一番大切なことは、姿勢です。**よい姿勢でないと、よい声はできません。腰骨を立てて、空気をしっかり吸い、両足をしっかり地面につけて発声します。

狂言では、声が出ていないから注意をされるのではなく、声を出そうとしない時や自分の気持ちを相手に届けようとしないうちに注意をします。

言葉は難しいですが、大体の意味がわかればいいです。**室町時代の言葉をそのまま使っている**ので、それがまたおもしろいところです。